# 第47回　高橋記念賞

高橋記念賞は，故 高橋愛次氏の功労を記念し，扶桑軽合金株式会社（現　株式会社アーレスティ）より寄贈された基金により，軽金属鋳物，ダイカスト，展伸材，二次合金および再生地金等の溶解・鋳造に関連する工業技術の進歩発展に功労のあった技能者に贈る。

**高橋　貴朗　君**
（株式会社神戸製鋼所）

高橋 貴朗 君は，1991年に株式会社神戸製鋼所に入社後，4年間品質保証室にて出荷検査業務を担当した後，1995年からアルミ板研究部（現　アルミ板開発部）に異動，アルミ板製品の小規模試作品の製作を担う試作加工班にて，溶解・鋳造～熱処理～圧延～矯正の実務に従事してきた。溶解鋳造技術では，新合金開発を通じたアルミ板の用途拡大への寄与に加え，鋳造割れ抑制やドロス再資源化といった生産技術の向上等にも大きな成果を挙げた。近年では市中スクラップを活用したリサイクル性向上にも取り組んでいる。豊富な経験を活かし，事業所の異なる鋳鍛部門や押出部門，線材関連会社からの試作依頼にも積極的に対応し，グループ全体のアルミニウム溶解鋳造技術向上に貢献している。また，技術の向上だけでなく，次世代を担う熟練作業者，若手の研究開発スタッフの育成に努めるとともに，新しい保護具や暑熱対策などもいち早く職場に導入し，安全を最優先とする職場づくりにも尽力している。近年では，全社ダイバーシティネットワークのメンバーに参画し，女性を含む誰もが働きやすい現場の実現を目指し，職場環境のいっそうの改善に取り組んでおり，今後さらなる活躍が期待される。

**田辺　宏治　君**
（堺アルミ株式会社）

田辺 宏治 君は，1984年に昭和アルミニウム株式会社（現　堺アルミ株式会社）に入社，アルミニウムスラブおよびビレットの溶解鋳造現場において原料配合から装入，操炉，鋳造のあらゆる作業に従事し，生産に必要な技能の習得・実践だけでなく作業環境やオペレーターの作業負荷改善ならびに品質改善に真摯に取り組んできた。26年間溶解鋳造現場の第一線で活躍した後，保全留学（社内人材育成制度）による専門保全技能の習得・強化を経て，溶解鋳造現場の設備保全担当として実務に携わった。これらの経験を大いに生かすべく2013年に技術スタッフ職に従事してからは，アルミニウム精製プラントの安全安定操業に係る課題であった精製塊搬送ラインにおける慢性故障対策，精製プラント溶解炉の寿命延長，溶解炉ドロス回収作業の効率化などの解決において多大な成果を上げ，社内の電解コンデンサ用高純度アルミニウム箔の安定生産に大きく貢献している。業務に前向きに取り組む姿勢，アイデアを具現化するスキル，直ちに実行する行動力によりさまざまな課題を解決しており，現場の現役作業者の模範となっている。後進とのコミュニケーションも活発で，育成にも熱心である。

**辻本　康典　君**
（日軽エムシーアルミ
株式会社）

辻本 康典 君は，1987年大信軽金属株式会社（現　日軽エムシーアルミ株式会社）に入社以来，37年間アルミニウム合金の溶解・溶製・鋳造など二次合金製造の作業に従事し，顧客からの要求に応えるべく，品質の改善に尽力してきた。現在，工場の安全管理者として，生産活動の根幹となる安全にもっとも注力しており，現場作業者の安全意識の向上を図り，労働災害撲滅に中心的な役割を担っている。製造現場では，人材の育成が事業を継続するための重要な鍵となっている。辻本君は自らの行動で後進の指導・教育にあたり，操業班班長を幾人も育成している。また，地域社会活動におけるアルミニウムリサイクル講習会では，長年蓄積された製造知識に裏付けされた説明により高い評価を得ている。今後も社会的に要求の高まるカーボンニュートラルへの取り組みとして，燃料使用量の削減，市中スクラップの使用量増加に，後進を指導・育成しながら取り組むことを期待する。

**阪野　義和　君**
（株式会社UACJ）

阪野 義和 君は，1986年に住友軽金属工業株式会社（現　株式会社UACJ）に入社以来，38年間一貫してアルミニウムの鋳造工程に従事してきた。1992年には当時最新鋭の大型スラブ鋳造機の立上げで鋳造機の早期量産稼働に大きく貢献した。さらに，鋳造工程で発生する品質や設備故障などの問題について，その原理や現象の真因を理論的に把握する力に優れ，常に現場・現物・現象・原理・原則の5ゲン主義を遂行し，数多くの現場改善を行ってきた。2019年からは鋳造職場の職場長として，鋳造製品の製造における安全・品質・生産の管理と改善について尽力しており，そのすべてにおいて「モノづくりは，人づくり」であるとの信念で，精力的に自身の経験と知識を現場作業者に伝え技能と知識の伝承に努めている。